

科目名:生老病死と村社会

●科目概要

松尾芭蕉は「人生そのものが旅である」と言っている。「舟の上に生涯を浮かべる者は日々旅にして旅を住处とす」とあるように、やがて人は老い、病になり死を迎える。芭蕉は生涯旅を続け「無住漂白」に生きた。なんと現代人は、高級住宅に住み、金をありあまるほど使い、豪華な旅を楽しんでいる。度々大災害に襲われる日本、迫り来る危機、こうした災害に対するには「村の共同体」の再生が必要である。そのような文学が日本にはある。

●教員コメント

岩手県遠野、ここは太古から今日まで人々が生活し、災害や疫病、飢餓を何度も経て来た。人間の「生老病死」を見詰めながら、村の人々がどんな「思いを寄せて生きて来たのか」という「祈り」の気持ちを汲んでみよう。

●教科書

岩波文庫、新潮文庫、集英社新書 『奥の細道』松尾芭蕉 著
『遠野物語』佐々木喜善、柳田國男 著

